ウニヴニ三重大

MIE UNIVERSITY NEWSLETTER

26号

'02.9.30

三重大学産学
ネットワーク
運営室

表紙イラストレーションタイトル『流水に千鳥』
表紙デザイン

岡田　博明
（三重大学教育学部助教授）

このイラストレーションは、三重大学のある三重県に古くから伝わるテキスタイルパターンの『伊勢型紙』をモチーフに製作しました。
この型紙のタイトルは『流水に千鳥』で、波間を群れて飛ぶ千鳥をモチーフにした江戸時代（19世紀初期）に製作された『伊勢型紙』です。型をくずれないように固定している糸の様子が面白く、その部分をやや強調したイラストに仕上げました。

The cover page design is entitled : “Birds in the Stream”
Designer : Hiroaki Okada
(Associate professor, Faculty of Education, Mie University)

The motif of this illustration is “Ise Katagami”, which is the traditional textile pattern typical to Mie prefecture where Mie University is located.
The title of this pattern is “Birds in the Stream”, Whose motif is a flight of birds on waves. It was made during Edo period (at the beginning of the 19th century).
You can see that some threads prevent the pattern getting out of shape.
Their appearance is worth of interest, therefore I made them stand out a little in this illustration.

目　　次
Contents

1．第37回日本医学放射線学会秋季臨床大会を終えて　竹田　寛……1
The 37th Autumn Assembly of the Japan Radiological Society

2．第38回日本口腔組織培養学会　田川俊郎……3
The 38th Congress on Tissue Culture for Oral Research

3．第64回日本糖尿病学会中部地方会　杉山　隆……5
The 64th Regional Meeting of the Japan Diabetes Society

4．第218回日本小児科学会東海地方会　駒田美弘……7
The 218th Regional Meeting of the Japan Pediatric Society in the Tokai District

5．第41回東海小児がん研究会　駒田美弘……8
The 41st Meeting of the Tokai Children's Cancer Study Group

6．日本医工学治療学会第18回学術大会　矢田　公……9
The 18th Annual Meeting of the Japanese Society for Therapeutics and Engineering

7．第72回日本衛生学会総会　山内　徹……11
The 72nd Annual Meeting of the Japanese Society for Hygiene

8．第98回中部日本整形外科災害外科学会　加藤　公……13
The 98th Congress of the Central Japan Association of Orthopaedic Surgery & Traumatology

9．農業機械学会関西支部第108回例会　堀部和雄……15
The 108th Annual Meeting of the Kansai Branch of the Japanese Society of Agricultural Machinery

10．前立腺生物学シンポジウム伊勢志摩2002　杉村芳樹……17
Symposium of Biology of Prostate Gland, Ise-shima 2002

11．第17回三重母性衛生学会　前原澄子……17
17th Mie Society of Maternal Health

12．第264回東海外科学会　矢田　公……17
The 264th Meeting of Tokai Association of Surgery

13．日本循環器学会東海北陸合同地方会　中野　赳……18
The Annual Meeting of Tokai-Hokuriku joint Congress of Japanese Circulation Society

14．平成14年度日本産業衛生学会東海地方会学会　川西正祐……18
Annual Meeting 2002 of Tokai Branch of Japanese Society for Occupational Health

15．第32回日本消化器集団検診学会東海北陸地方会　東海北陸消化器集検の会　竹田　寛……18
The 32nd time Japanese Society of Gastroenterological Mass Survey Tokai-Hokuriku District Meeting
The Meeting of the Tokai-Hokuriku Gastroenterological Mass Survey

16．日本耳鼻咽喉科学会第111回東海地方部会連合講演会　間島雄一……19
The 111th Tokai Regional Meeting of Japanese Otorhinolaryngology Society

17．第189回日本内科学会東海地方会　中野　赳……19
The 189ed Tokai Congress of the Japanese Society of Internal Medicine

18．日本液晶学会液晶物理・物性フォーラム研究会　山下　護……19
－21世紀の液晶物理・基礎と応用－
Symposium of Liquid Crystal Physics and Condensed Matter Forum
－Liquid Crystal Physics in 21-th Century-Basis and Applications－

19．日本ベントス学会第16回大会　－公開シンポジウム「海洋の移入種」－　関口秀夫……20
Annual Meeting of the Japanese Association of Benthology-Mie, 2002
－Symposium “Marine Invaders”－

20．日本微生物生態学会第18回大会　菅原　庸……20
The 18th Annual Meeting of the Japanese Society for Microbial Ecology

21．日本トリプトファン研究会第25回学術集会　田口　寛……20
25th Annual Meeting on Japanese Study Group for Tryptophan Research

22．三重バイオフォーラム2003　リグノセルロース分解のバイオテクノロジーとバイオマス利用　大宮邦雄……20
MIE BIOFORUM 2003 Biotechnology of Lignocellulose Degradation and Biomass Utilization

英文は日本文の要約です。
The English text is a condensed version of the Japanese articles.

第37回日本医学放射線学会
秋季臨床大会を終えて
The 37th Autumn Assembly of the Japan Radiological Society

この度第37回日本医学放射線学会秋季臨床大会を、平成13年11月８日(木)から10日(土)にかけて名古屋の国際会議場で開催し、無事終えることができました。

日本医学放射線学会では、春と秋の年２回、全国規模の学会を開催することになっています。春の総会は、一般学術発表とシンポジウムおよび機器展示を中心に構成され、秋季大会では、臨床的なシンポジウムと教育講演を中心とした企画が練られます。そのため秋季大会では、教育講演やリフレッシャー・コースの受講を希望する若手放射線科医が多く集まる傾向にあり、例年1000人程度の参加者があります。しかし今回は予想をはるかに上回って、最終的な登録参加者は1600人を越えました。恐らく今までの秋季大会の中で、最も参加者が多かったものと思われます。同時開催しました日本放射線技術学会(診療放射線技師の学会）にも1500人程集まったということですので、総勢3000人以上が集まったことになります。本来なら伊勢志摩で開催したかったのですが、ホテルが足りずやむなく名古屋で開催致しました。

何故こんなに多くの人が集まったのか、理由は良く分かりません。ただ教育講演やフィルム・リーディング・セッションあるいはリフレッシャー・コースなどは、いずれも超満員で会場に入り切れない人が続出し、二日目には急遽会場を大きな部屋へ変更した程でした。教育的なプログラムに人気が集中するのは最近の学会の傾向ですが、今学会では特に教育セッションを多くしたことも、参加者が増えた要因かも知れません。

The 37th autumn assembly of the Japan Radiological Society (JRS) was held November 8－10, 2001, at Nagoya International Convention Center. The JRS holds two major meetings annually. This was the first joint meeting with the Japanese Society of Radiological Technology. About 1,000 participants usually attend the autumn assembly ; however, more than 1,600 attended this joint meeting.

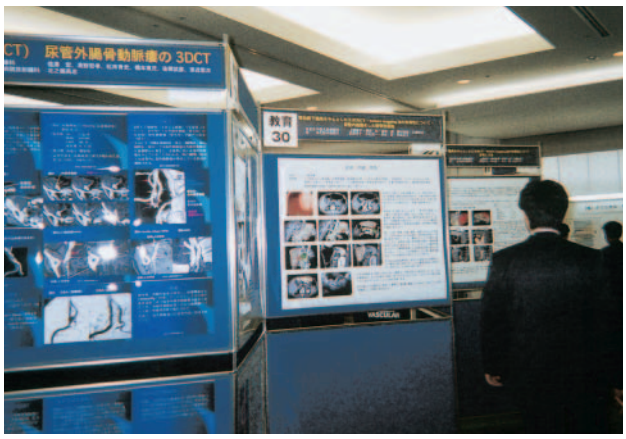
There were three main lectures presented by Dr. Satoru Ooba, professor emeritus of Nagoya City University, Dr. Yoshitake Ishihara, president of Toba Sea－Falk Museum, and Dr. Hitoshi Katayama, professor emeritus of Juntendo University. Five international guests were invited to speak. They were Dr. C.B. Higgins, UCSF ; Dr. M.D. Dake, Stanford University ; Dr. M.C. Lee, Seoul National University ; Dr. D. Pavcnik, Dotter Interventional Institute ; and Dr. S.E. Maier, Harvard Medical School.

The assembly offered educational programs that included morning lectures, refresher courses, a film－reading session, educational exhibitions, and practice with medical statistics. Many radiologists, relatively new to the field, participated in these courses.

During the evening reception, fresh tuna sashimi from the Sea of Kumano was served along with traditional entertainment provided by Japanese drummers from the Ise area

The meeting was a success. Those who attended gained a great deal professionally and socially.

玄関におかれた学会案内板
Poster board of this meeting placed in the main entrance.



教育展示会場
the hall of educational exhibition.

また今回は、秋季大会としては放射線技術学会との最初の合同開催ということで、テーマを「21世紀の放射線診療―医学と技術の融和―」とし、シンポジウムなどの合同企画をたくさん組みました。これも先生方の関心を集めたのかも知れません。

特別講演は３題企画しました。名古屋市立大学名誉教授の大場覚先生には、レントゲンのノーベル賞受賞100周年を記念して、博士のノーベル賞受賞前後の顛末記を、また海の博物館館長の石原義剛先生には、伊勢湾における海洋汚染の現状について詳細にお話いただきました。さらに順天堂大学名誉教授、大東医学技術専門学校校長の片山仁先生には、放射線医学の将来展望に関しましてお話していただきました。

外人招請講演では、UCSF の C.B.Higgins 先生、Stanford 大学の M.D.Dake 先生、Seoul 国立大学の M.C.Lee 先生、Dotter Interventional Institute の D.Pavcnik 先生、Harvard 大学の S.E. Maier 先生らに、それぞれご専門領域におけるトピックスについてお話をしていただきました。

シンポジウムには、技術学会との合同シンポジウムを５題、医学放射線学会単独シンポジウムを４題企画し、さらに「乳癌検診」をテーマとして市民公開シンポジウムも開催しました。いずれのシンポジウムも盛況で活発な討論がなされましたが、特に合同シンポジウムでは、医師側と技師側の意見が率直に述べられ、お互いの立場を理解する上で意義深かったように思います。

また早朝からの教育講演９題と、「病理から画像、外科手術まで」と題したリフレッシャー・コース４題、フィルム・リーディング・セッション、ランチタイムセミナー６題などが行われ、いずれも超満員の大盛況でした。また今回新しい試みとして、講義形式で「ROC 解析」の基礎と実践を学ぶ医学統計講習会を開催しました。

戦後生まれの放射線科教授で構成される「若手放射線科教授の会」主催のシンポジウムを今回初めてプログラムに取り入れましたが、放射線医学の将来に関して缶ビール片手に熱心な討議がなされました。フロアーからも忌憚のないご意見をいただき、大いに盛り上がりました。

教育展示は、「実際の診療に役立った（三次元）再構成画像」をテーマとして40演題の発表があり、一般展示には33題の応募がありました。

本学からは、矢谷学長に懇親会にてご挨拶をいただき、整形外科の内田淳正教授にはリフレッシャー・コースの講師を、さらに別所幸子副看護部長には、シンポジストをお願い致しました。

懇親会では、尾鷲港から直送の鮪の刺身を並べ、四日市の諏訪太鼓の競演を披露致しました。遠来の参加者にも少しは伊勢志摩の醍醐味をお楽しみいただけたものと思います。

何はともあれ、無事学会が終わりほっとしております。この2年間、私をはじめ医局員一同、学会準備に追われましたが、良い経験をさせていただいたと喜んでおります。

懇親会で談笑する矢谷隆一学長（左）、竹田　寛第37回日本医学放射線学会秋季臨床大会会長（真中）、堀田勝平第29回日本放射線技術学会秋季学術大会会長（右）
At the reception, Ryuuichi Yatani, President of Mie University (right), Kan Takeda, President of 37th autumn assembly of the Japan Radiological Society(middle), and Katsuhei Horita, President of 29th autumn congress of Japanese Society of Radiological Technology(left).

懇親会における諏訪太鼓の熱演。
Traditional public entertainment of Japanese drams in Ise-area was played at the reception.

筆者プロフィール
竹田　　寛
医学部教授（医学博士）
1949年生まれ

Profile
Kan Takeda
Professor, Faculty of Medicine
(Doctor of Medicine)
Born in 1949

第38回日本口腔組織培養学会
The 38th Congress on Tissue Culture for Oral Research

第38回日本口腔組織培養学会を平成13年11月10日、ホテルグリーンパーク津で開催いたしました。この学会は平成11年より研究会から学会になり、口腔組織由来の材料を用いた基礎的研究を行っている者が集まり成果の発表・討論と相互の親睦をはかることを目的に開催されています。

今回は全国から約80名の研究者が集いました。特別講演として本学学長の矢谷隆一先生に＜ヒト前立腺癌の発生と進展　－地理病理学的・分子病理学的アプローチ－＞と題して御講演を頂きました。一般演題も25題の発表がなされ、充分な口演・質疑応答時間を取ったにも関わらず、予定時間を大幅に超過してしまい途中で質疑応答を切り上げざるを得ない場面も多くありました。種々の学会、研究会が多く開催されているなか、このような全国の歯学部および医学部の口腔外科学の研究者が一同に会して、基礎から臨床に即した研究発表を行う学会はなく、本学会の存在意義をあらためて認識する有意義な一日でありました。

最後に本学会の開催に当たり御協力を頂きました方々に厚く御礼を申し上げます。

The 38th Congress on Tissue Culture for Oral Research was held at the Green Park Hotel, Tsu, November 10, 2001. The tissue culture congress was established in 1999 to be promoted from researcher's meeting. The objective of the organization is to publish and promote basic research on oral tissue and to encourage professional collaboration.

More than 80 research scientists attended the congress from throughout Japan. Dr. Ryuiti Yatani, president of Mie University, delivered the keynote speech, titled 'Occurrence and Development of Human Prostate Cancer : A patho－geographic and patho－biologic approach." Twenty－five presentations were presented and contended each other. The participants were enthusiastic during the lengthy question and answer sessions, and schedule of congress overrun the allotted time.

Among many congress or seminar, there are no meeting attending reserchers from Faculties of Dentistry and Departments of Oral Surgery of Medicine. The significance of the congress was obvious to all who attended. The meeting was a great success. Finally, I would like to thank to the cooperation of staff members and sponsors who made the congress possible is very much appreciated.

会長
President Dr. T. tagawa.

特別講演
Special lecture Dr. R. Yatani.

筆者プロフィール
田川　俊郎
医学部教授（医学博士）
1949年生

Profile
Toshiro Tagawa
Professor, Faculty of Medicine
(Doctor of Medicine)
Born in 1949

第64回日本糖尿病学会中部地方会
The 64th Regional Meeting of the Japan Diabetes Society

第64回日本糖尿病学会中部地方会は、平成13年11月17日(土)、三重県総合文化センターで豊田長康教授を学会長として開催された。

今回の学会では、特別講演２題、一般演題36題および１つのワークショップ（４演題）が３会場で行なわれた。一般演題の応募数が例年より少ないにもかかわらず、内容的には大変濃厚な学術集会であった。交通の便という点からは地方での開催は多くの出席者の方にご足労をおかけすることになることは確かではある。しかしながら、今回若干不便な地にもかかわらず愛知県、岐阜県に加え石川県、福井県から静岡県まで約250名もの方々にお集まりいただくことができ非常に感謝している次第である。特に今回は糖尿病療養士の方々が多かったことも特筆すべきことであった。

さて本学会のワークショップでは「劇症１型糖尿病」のタイトルで愛媛大学医学部糖尿病内科の牧野英一教授に基調講演を頂き、４つの関連演題が発表された。最近急激に発症するタイプの１型糖尿病の存在することが明らかとなり、妊娠時に発症する症例も少なからずあり、現在ウイルス感染などによる免疫が発症に関与する可能性があると推察されている。特徴として抗GAD抗体が認められないこと、グリコヘモグロビンが低値であることなどがあげられる。劇症１型糖尿病と妊娠の関係は現在のところ不明である。臨床上、妊娠時に糖尿病性ケトアシドーシスを発症した場合、胎児死亡を来すことがあ

The 64th Regional Meeting of the Japan Diabetes Society was held November 17, 2001, in Tsu City. The organizer was Dr. Nagayasu Toyoda, professor in the Department of Obstetrics and Gynecology.

There were two special lectures, 36 general presentations, and one workshop titled "Nonautoimmune Fulminant Type 1 Diabetes Mellitus." Professor Hideichi Makino, of the Department of Laboratory Medicine of the Ehime University School of Medicine, lectured on nonautoimmune fulminant type 1 diabetes in the workshop. In addition, four associated papers were also presented.

This novel type of diabetes belongs to a subtype of idiopathic (type 1B) diabetes because of the absence of glutamic acid decarboxylase antibodies and the low HbA1c values. Further studies with young patients may provide a better understanding of this new type of diabetes.

Professor Yasuhiko Iwamoto, director of the Tokyo Women's Medical School, presented a lecture titled "Clinical Significance of Insulin Lispro." Insulin lispro, a rapidly absorbed analogue, is superior to soluble insulin in terms of reduction of HbA1c and post－prandial glucose values, frequency of hypoglycemia as well as in the improvement of the quality of life. He showed the pharmacological effects of insulin lispro and clinical topics about insulin lispro. His presentation was very informative for our clinical practice.

り、妊娠終了を含め、その対応に困難を要する場合がある。今後さらなる症例の蓄積により発症機序などの究明に興味が持たれる領域である。

一般口演が3会場で行われた後に、東京女子医科大学内科の岩本安彦教授に「新しい超速効型インスリンの臨床的意義」なるタイトルで超速効型インスリンの生理作用から臨床応用に渡る広い範囲の特別講演を頂いた。リスプロはヒトインスリン製剤を遺伝子組み換え技術により合成されたインスリンアナログで、わが国でも昨年秋より使用可能となった。本剤はヒトインスリンに比較し、作用発現が速やかで作用持続時間も短いことが証明されている。事実リスプロは従来の速効型インスリンに比較し、吸収が約2倍早いことが判明している。このことはインスリン療法を行っている糖尿病患者にとって大変意義深いこととなる。すなわち食直前に本剤を注射すればよいことにより患者のQOLを高めることにつながるのである。以上、岩本教授のご講演は実地臨床上、非常に役立つ内容であった。

本学会は糖尿病に関するトピックを十分に盛り込むことができた学会であったと考えている。以上、簡単ではあるが、今回の学会の報告とさせていただきたい。今回の学会を終えて、今後コメディカルのためのワークショップなどの必要性を感じた次第である。

最後に多くの企業の皆様のご協力により今回の学会を支えて頂いたことに心より感謝の意を表したい。

250 people attended this meeting from Aichi, Gifu, Shizuoka, Fukui, and Ishikawa. It is noteworthy that many of those attending the meeting were certified diabetes educators.

筆者プロフィール
杉山　　隆
医学部助教授（医学博士）
1961年生

Profile
Takashi SUGIYAMA
Associate Professor, Faculty of Medicine
(Doctor of Medicine)
Born in 1961

第218回日本小児科学会東海地方会
The 218th Regional Meeting of the Japan Pediatric Society in the Tokai District

平成14年２月11日（建国記念の日）、本学医学部小児科・駒田美弘教授を当番世話人として第218回日本小児科学会東海地方会が津市のアスト津・アストホールにて開催され、約200人の参加がありました。本学会は日本小児科学会の東海ブロックにおける地方会であり、年４回開催され、主として愛知・岐阜・三重３県の病院勤務あるいは開業の小児科医が参加します。今回は内分泌・代謝、未熟児・新生児、感染症、アレルギー、神経など多岐にわたる領域から30題の興味ある症例報告や臨床研究が発表され、活発な討論が行われました。特別講演は小児科医でもある岐阜大学医学部医学教育開発研究センター教授の鈴木康之先生にお願いし「小児医学教育の新しい流れ」についてのご講演をしていただきました。本学においても医学教育改革が始まっていますが、本学での卒前卒後の医学教育の方向性と医学教育における小児科医の役割について示唆に富むお話でした。特に鈴木先生の岐阜大学での PBL-tutorial への取り組みや経験についてのお話は私達にとっても大変参考になる内容でした。本地方会は若い小児科研修医が初めて学会発表を行う場として、また、小児科開業医や病院勤務医にとっての生涯教育の場として意義の大きな学会となっています。

The 218th regional meeting of the Japan Pediatric Society was held February 11, 2002, in the Tokai district at Ust Tsu Hall of Tsu City. Professor Yoshihiro Komada, Department of Pediatrics, Mie University School of Medicine, served as the chairman of the meeting. About 200 pediatricians in Aichi, Gifu, and Mie Prefectures participated in the meeting. A total of 30 case reports and studies on various topics in pediatrics were presented. At this meeting, many freshmen had the opportunity to make presentations. Furthermore, Professor Yasuyuki Suzuki, Medical Education Development Center, Gifu University, gave a lecture titled "New Trends in Education of Pediatrics." He shared his experience in problem－based learning tutorials at Gifu University. The lecture was accurately useful for the process of medical education taking place at Mie University. The participants were pleased with what they learned and ready to implement the knowledge in their medical practice.

第41回東海小児がん研究会
The 41st meeting of the Tokai Children's Cancer Study Group

平成14年３月２日(土)、本学医学部小児科・駒田美弘教授を当番世話人として第41回東海小児がん研究会が愛知県医師会館で開催されました。本研究会は愛知・静岡・岐阜・三重の小児癌診療に従事している病理・外科系診療科・小児科の専門医が診療科の枠を越えて参加する研究会で、約100人の参加者がありました。研究会は診断が困難であった症例の病理検討、ワークショップ、特別講演、一般演題より構成されました。ワークショップでは骨肉腫の治療が取り上げられ、主として外科的治療を担当する整形外科、化学療法を担当する小児科の２つの診療科からの発表があり、活発な討議が行われました。ワークショップの結論として、今後、東海地区においても多施設共同の大規模研究が診療科の枠を越えて行われるべきであるという方向性が示されました。引き続き本学整形外科・内田淳正教授による「小児悪性骨腫瘍（骨肉腫・ユーイング肉腫）の治療」についての講演があり、骨肉腫を中心とした悪性骨腫瘍の治療の変遷や今後の展望等についてユーモアを交えて、大変有意義なお話をしていただきました。さらに、診療科の枠を越えた多施設共同研究に向けての小児科の役割についても示していただきました。本研究会を通して、施設や診療科の枠を越えて、機能的に連携・協力していくことの大切さを改めて感じました。

The 41st meeting of the Tokai Children's Cancer Study Group was held March 2, 2002, at Aichi Prefecture Doctor's Hall of Nagoya City under the organization of Professor Yoshihiro Komada, Department of Pediatrics, Mie University School of Medicine. The members were clinicians and research scientists in the field of pediatric oncology who worked at institutes in Aichi, Shizuoka, Gifu, and Mie prefectures. About 100 professionals participated in lively discussions. The meetings included a clinico－pathological conference (CPC), a workshop, a special lecture, and a general presentation. In the CPC, surgeons, pediatricians, and pathologists discussed three cases with teratoid tumor. In the workshop, osteosarcoma (OS) was discussed, and the participants reached the conclusion that collaboration by the institutes in the Tokai area on the treatment of this disease along with the development of a large－scale clinical study would be of value. In addition, Professor Atsumasa Uchida, Department of Orthopedics, Mie University School of Medicine presented a lecture, titled "Treatment of Malignant Osteogenic Tumors in Children." In an impressive talk, he reported on the history of treatment of OS and the future prospects in this field. He also demonstrated the role of pediatricians in the treatment of osteogenic sarcoma. The significance of multi－modal treatment and the cooperation of surgeons and pediatricians were emphasized.

筆者プロフィール
駒田　美弘
医学部教授（医学博士）
1952年生

Profile
Yoshihiro KOMADA
Professor, Faculty of Medicine
(Doctor of Medicine)
Born in 1952

筆者プロフィール
堀　　浩樹
医学部講師（医学博士）
1958年生

Profile
Hiroki HORI
Lecturer, Faculty of Medicine
(Doctor of Medicine)
Born in 1958

日本医工学治療学会第18回学術大会
The 18th Annual Meeting of the Japanese Society for Therapeutics and Engineering

大会長講演（矢田公教授）
Presidential address by Prof. Isao Yada

招請講演（能勢之彦教授）
Invited lecture by Prof. Yukihiko Nose, Baylor college of Medicine

日本医工学治療学会第18回学術大会を2002年３月14日、16日に津市の三重県総合文化センターにおいて開催させて頂きました。私は常日頃より21世紀の医療は、ITを駆使した医療のシステム化に加え高度先進医療には欠かせない医工学の発展が鍵になると考えており、メインテーマは「21世紀の医療と医工学」と致しました。また21世紀の医療において極めて重要な位置を占めるであろうと考えられる組織工学、再生医療を本学会のサブテーマとし、会を運営いたしました。

招請講演には米国Texas州よりBaylor医科大学外科の能勢之彦教授にお越しいただき、「Blood Purification Technologies in the 21st Century」をご講演頂きました。また特別講演は「医工学治療研究推進への期待」を慶應義塾大学医学部川田志明教授に、「成熟社会の保健・医療と自己責任」を鈴鹿医療科学大学澤　宏紀学長に、「重症心不全の外科治療の現場から見た人工臓器と臓器移植の意味論」を聖路加国際病院ハートセンター長の小柳仁東京女子医科大学名誉教授にご講演して頂きました。何れも高所よりの見識に富む、メインテーマにそくした有意義なご講演を賜りました。

また会長講演では、「体外循環と生体反応」と題し、30年間続けて参りました体外循環の研究の一部を講演致しました。

教育講演は、渥美和彦東京大学名誉教授、京都大学再生医科学研究所の清水慶彦教授、板橋中央総合病院血液浄化療法センター所長の阿岸鉄三東京女子医科大学名誉教授、三重大学整形外科学の内田淳正教授の４名の先生にお願い致しました。特に本学会でのサブテーマとしている組織工学、再生医療については、清水慶彦教授より

The 18th Annual Meeting of the Japanese Society for Therapeutics and Engineering was held March 14－16 in Tsu City.

Dr. Yukihiko Nose, Professor of Surgery, Baylor College of Medicine, gave the invited lecture titled ‘Blood Purification Technologies in the 21st Century.”

There were three guest speakers. Professor Simei Kawada of Keio University lectured on the expectancy of the research and development in Therapeutics and Engineering. Dr. Hiroki Sawa, president of Suzuka University of Medical Science and Technology, discussed the individual responsibility for healthcare and medical treatment in the mature nation. Dr. Hitosi Koyanagi, president of the heart center of St. Luke Hospital gave a lecture entitled ‘Comparison of effectiveness of artificial organs and organ transplantations on the treatments for end－stage heart failure.”

Dr. Kazuhiko Atsumi, Dr. Shimizu, Dr. Agishi, and Prof. Uchida presented educational lectures. The title of the presidential address was ‘Bio －Response against Extra Corporeal Circulation.” There were four symposium sessions, two panel discussions, two current concept discussions, and four workshop sessions.

Discussions in all sessions were very active and relevant.

The active participation of many faculty members of Mie University is very much appreciated.

「再生医療の現状と将来」を、本学の内田淳正教授より「セラミック系生体材料の臨床応用」をご講演いただき、大変な好評を得ました。

その他の企画ものとしては、シンポジウムを４題、パネルディスカッションを２題、カレントコンセプトを2題、ワークショップを４題企画いたしました。

特にシンポジウム④「再生医工学治療の最前線」では、東京女子医科大学先端生命医科学研究所の岡野光夫教授と名古屋大学医学部組織工学の畠　賢一郎先生の座長の下、再生医学の日本の最先端の研究者５名に御発表、御討論を頂きました。さらに、パネルディスカッション①「組織工学の基礎と医工学治療」では座長を九州大学大学院　医用工学松田武久教授と本学工学部駒井喬教授にお願いし、パネリストには近畿大学医学部形成外科の磯貝典孝先生に加え、本学より、工学部生体材料化学の宮本啓一先生、医学部病理学の今中恭子先生、医学部整形外科学の平田　仁先生の３先生方に加わって頂き、新進気鋭の先生方によるホットなご発表ご討論を頂きました。これらの企画により日本での組織工学、再生医療の分野での最先端の研究内容を知ると同時に、あらためて本学のこの分野での研究レベルの高さを実感致しました。本学各学部、各研究領域の人材による集学的な研究体制づくりが三重大学での今後の急務であると考えられました。

また最近の医療では大きな問題となっているリスクマネージメントに関して、シンポジウム②「輸液関連機器の医療事故（Ⅱ）－その予防と対策－」およびパネルディスカッション②「看護とリスクマネージメント」を企画致しました。

パネルディスカッション②では現場を知り尽くしている看護師の先生方に座長、パネリストをお願致しました。本学からは、本学附属病院看護部の鈴木皓久子副部長に座長を、本学附属病院救急集中治療部北山悦子師長にパネリストをお願い致しましたが、大変実りのある、実戦に則したパネルディスカッションとなりました。

このように全学をあげてのご支援により、盛会のうちに会を終えることができました。これも、懇親会でご挨拶を賜りました矢谷隆一学長をはじめ、三重大学の諸先生方のご協力の賜と、心より感謝申し上げる次第であります。

誠に有難うございました。

シンポジウム風景
Symposium

会長招宴での歓迎挨拶（矢谷隆一学長）
Welcome address by Prof. Ryuuichi Yatani, President of Mie University

会長招宴でのアトラクション（医学部サニーオールスターズ）
Attaction at welcome party by Sunny All Stars, Medical students of Mie University

筆者プロフィール
矢田　公
医学部胸部外科教授（医学博士）
1940年生

Profile
Isao YADA
Professor of Department of Thoracic and Cardiovascular Surgery
School of Medicine M.D.Ph.D
Born in 1940

第72回日本衛生学会総会
The 72nd Annual Meeting of the Japanese Society for Hygiene

第72回日本衛生学会総会を、2002年３月26～29日の4日間、三重大学の三翠ホールの大ホールを主会場に、医学部の講義室等を分科会会場として開催しました。この学会は、社会医学系の学会では最も古く伝統のある学会でその前身の第１回聯合衛生学会の開催は昭和４年に遡ります。津市での開催は1986年に吉田克己現三重大学名誉教授が開催された第56回総会以来16年ぶり２回目になります。医系大学の社会医学関連講座の教官や研究者および公的・私的研究機関の研究者が学会員です。全国から600名を越える学会員が参加しました。

21世紀初頭の今総会は「21世紀の健康と環境、そして衛生学」のテーマのもとに企画しました。この学会恒例の次期学会長講演は、三角順一大分医科大学公衆・衛生医学教授が「衛生学の創造　その発想の原点を探る－衛生学者34年の軌跡－」と題して永年のご自身の研究史から衛生学の研究テーマの創造性について講演されました。衛生学会賞は山本正治新潟大学大学院医歯学総合研究科地域予防医学教授が「胆道がんの成因に関する疫学的研究」で受賞され、さらに学会奨励賞は、熊谷嘉人筑波大学社会医学系環境医学助教授が「酸化ストレスに起因する環境化学物質の毒性発現メカニズムの解明」、および福島哲仁福岡大学医学部公衆衛生学助教授が「パラコー

The 72nd Annual Meeting of the Japanese Society for Hygiene was held during March 26－29, 2002, in Sansui Hall and in facilities of the Faculty of Medicine at Mie University. This traditional society is the oldest in the societies of social medicine in Japan. The first meeting was in 1929, and the 56th meeting, in March 1986, was conducted by Prof. K. Yoshida, an honorary professor of Mie University.

Four special lectures were presented. Prof. J. Misumi, Oita Medical University, gave the President－Elect Lecture titled ‘Study on the Origin of Ideas to Create a New Hygiene.” Prof. M. Yamamoto, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences, presented the Annual Congress Award Lecture titled ‘Epidemiological Studies on Gallbladder and Bile Duct Cancers.” Two Annual Young Investigator Award Lectures were presented. Dr. Y. Kumagai, University of Tsukuba, presented ‘Elucidation of Mechanisms Involved in Oxidative Stress－Dependent Toxicity of Environmental Chemicals,” and Dr. T. Fukushima, Fukuoka University, presented ‘Elucidation of the Paraquat Poisoning Mechanism and Further Development.”

Two plenary symposia were held in Sansui Hall. In the symposium－Ⅰ titled ‘Human －Environment : Preview of

総会。山内学会長（左）と稲葉学会幹事長

ポスター発表会場

総会シンポジウム風景

ワーク・ショップⅠ

学会懇親会風景

学会終了後、スタッフとアルバイトの学生さんたちと

ト中毒のメカニズムの解明から神経細胞死モデルの開発へ」の研究で受賞され、それぞれ受賞記念の講演をされました。

シンポジウムは２つ企画され、シンポジウムⅠは「人間－環境系　～21世紀への展望～」をテーマとして、竹内康浩放射線医学総合研究所緊急被ばく医療センター長と岸　玲子　北大・院・医学研究科公衆衛生学教授の司会で５人の演者により、21世紀の環境と人間の健康の関連及びそれらの研究の方向性を展望して頂きました。シンポジウムⅡは「社会医学と倫理―ヒトゲノム・個人情報をめぐって―」をテーマに、稲葉　裕順天堂大学医学部衛生学教授と森本兼曩　阪大・院・社会環境医学教授の司会で、これからの社会医学研究でも避けて通れない倫理の問題についてそのあり方を４人の演者に講演して頂きました。いずれも時宜を得た課題に対する演者の示唆に富んだ講演とフロアとの活発な議論が続き、企画した意図が十二分に生かされました。

この学会は一般研究発表に総会の重点をおく伝統がありますが、本総会では346題（口演209題とポスター発表137題）の一般研究の発表があり、口演発表では全演題に初めてOHPを導入し時間も15分に延長し、またポスター発表は座長によるものを含めて討論の時間をほぼ1日可能にしました。このために会期も３日間フルのハードなスケジュールになりましたが、学会員にはこれらの新機軸の導入により、十分活発な討論ができたと好評を得ました。

２日目の夕方には「衛生学における生殖毒性・次世代影響研究」と「ヘルスプロモーションと心理社会的要因」と題する２つのワークショップが開かれそれぞれ会場借用時間一杯まで熱心な討論が続きました。

多数の一般研究発表や企画を限られた期間と会場で実施するためにかなりタイトな学会運営になりましたが、参加者からは概して好評でした。1999年９月の「第40回大気環境学会年会」の開催に続いて本キャンパスにおけるこの規模の学会開催は２度目ですが、三翠ホールに続いて、看護学科校舎の完成が会場を確保出来た大きな要因です。そして事務局員とアルバイトの本学学生諸君が各々の役割を十二分に果たしてくれたことも大きい要因であり、その労を労い感謝の意を表したいと思います。

the 21st Century," five speakers described the specialized aspects of these issues, which included chemical and physical pollution, radiation accidents, human－response to environmental change, and exposure limits in the general environment. In the symposium－Ⅱ, titled 'Social Medicine and Ethics : Human Genome Research and Privacy Protection," four speakers discussed the relationship between the importance of research on the genome and epidemiology and the protection of personal information and human rights. These symposia dealt with very significant issues of the new century. Exciting discussions took place in each symposium.

More than 600 participants attended the meeting, and a total of 346 papers (209 oral reports and 137 posters) were presented on a wide variety of topics. Eighteen reports were presented from two medical departments of Mie University.

I would like to express my genuine appreciation to the staff and students of Mie University who volunteered their time and efforts toward making the meeting a great success.

筆者プロフィール
山内　　徹
医学部教授（医学博士）
1940年生

Profile
Toru YAMAUCHI
Professor, Faculty of Medicine
(Doctor of Medicine)
Born in 1940

第98回中部日本整形外科災害外科学会
The 98th Congress of the Central Japan Association of Orthopaedic Surgery & Traumatology

平成14年４月４日㈭、５日㈮の２日間にわたり第98回中部日本整形外科災害外科学会が三重大学医学部整形外科学教室　内田淳正教授を会長として四日市市において開催されました。会期中に当教室の開講50周年行事もあわせて行われ盛会となりました。

中部日本整形外科災害外科学会は50周年の歴史をもつ伝統ある学会でその規模も東は長野、静岡、西は山口、愛媛県にいたるもので、学会員数約5200名と整形外科としては日本整形外科学会の学術集会に次ぐものです。

今回の第98回の本学会では、内田教授の方針もあり、今後の本学会のあり方を模索すべく、いくつかの新しい試みが盛り込まれました。その一つは、三重大学医学部の教授の方々を中心に構成された三重教育セミナーでした。整形外科と他科との境界領域の話や整形外科医に間接的に役立つ話など13題の講演をして頂きました。そのうちの一つは開講50周年の記念講演を兼ねて三重大学の先輩である順天堂大学医学史客員教授酒井シズ先生に「医学史からみた整形外科」と題して特別講演をしていただきました。西洋医学の歴史を中心に整形外科の発展の過程や位置づけについてなど興味深いお話を拝聴することができました。

専門医必須講座も開設されました。慢性関節リウマチ、軟部腫瘍、手関節周辺の疼痛、膝のスポーツ傷害、腰部脊椎管狭窄症をテーマに取り上げ、各テーマの診断・治療について数名の講師により多面的に解説がなされ、有意義な講座となりました。

会長
President

主題として低侵襲脊椎手術、整形外科新技術、TKA後の関節可動域、人工股関節再置換術における臼蓋再建、骨軟部腫瘍患肢温存術、全身合併症を伴った大腿骨頚部骨折の

The 98th Congress of the Central Japan Association of Orthopaedic Surgery & Traumatology was held April 4－5, 2002, in Yokkaichi City. The congress was organized by Professor Atsumasa Uchida of Mie University. Approximately 5,200 orthopedic surgeons from Central Japan participated.

Thirteen lectures related to orthopedics were presented in the "Mie Educational Seminar" by professors of Mie University in fields other than orthopedics. One guest, Professor Shizu Sakai of Juntendo University, presented a lecture titled "The History of Orthopedics." Eight themes and five sessions of case examinations were prepared. Other general topics were presented in poster form.

More than 900 participants presented about 300 papers, including 179 poster presentations. Interesting topics were discussed in all sessions, and a lot of valuable knowledge was shared.

講演者
Speaker

ポスター発表
Poster session

受付
Reception

会場風景
The hall scenery

治療と QOL、高齢者の大腿骨頚部骨折に対する麻酔と周術期管理の８テーマを企画して、各分野についてデータに裏づけられた理論から将来的展望に関する議論がなされました。また、症例検討として４つのセッションを設け、それぞれに診断や治療に難渋した症例が報告され、経験や理論に基づいた活発的な議論がなされました。

一般演題はすべて、ポスター発表とし、壇上ではみられない本音の議論がなされました。また、ポスター発表179題の中から優秀賞が10題選考されました。優秀賞を受賞した発表者には記念の楯と賞金が授与され大好評でした。

今回の学会参加者は約900名で300題近い演題が集りました。当教室及び関連施設からも主題、症例研究などに多くの演題が発表され、その中で施徳全先生は「下腿部静脈血栓症による肺塞栓症の２症例」を報告しポスター優秀賞を受賞しました。症例報告ではありますが、下腿の DVT によっても肺塞栓症が発生しうることを啓蒙したよい内容であったため評価をうけての受賞と思われました。

２日間の学会は盛況のうちに終了し、新しい試みも大きな批判なく好評であったと考えます。このように有意義な学会を無事運営できましたのも、準備段階から同門の皆様方のご協力ご助言のお陰だと存じます。この場をおかりいたしまして厚くお礼申し上げます。

筆者プロフィール
加藤　　公
医学部助教授（医学博士）
1955年生

Profile
Ko KATO
Associate Professor, Faculty of Medicine
(Doctor of Medicine)
Born in 1955

農業機械学会関西支部第108回例会
The 108th Annual Meeting of the Kansai Branch of the Japanese Society of Agricultural Machinery

農業機械学会関西支部第108回例会が、平成14年６月22日㈯から平成14年６月24日㈪の３日間三重大学生物資源学部において行われた。今回の支部例会は、「今後の日本農業における農業機械の果たす新しい役割を農業の現場から考える」をテーマに行われ、学会員約150名が参加した。

６月22日㈯は、第８回若手の会が行われた。そのあり方については種々の議論があったが、今回は前回に引き続き学生主導で大学間の学生交流をテーマに行われた。学生参加者47名を６班に分け２班ずつディベート方式で農業問題３題を議論した。テーマは⑴日本国内において生産性を犠牲にしてまでも農薬や化学肥料の使用を低減すべきか⑵稲作減反政策を行うべきか⑶遺伝子組換作物を作るべきか、であった。

６月23日㈰は、伊藤信孝学会幹事の開会挨拶の後、９時30分から13時30分まで３会場に分かれ研究発表会が行われた。発表件数は36題であり、内容はロボット、農産加工、植物工場、海洋深層水の利用など多岐にわたっている。

13時40分から15時まで特別講演会「これからの農業、農業機械を現場から考える」が、以下のように行われた。

「モクモク手づくりファームが目指す農業の多角的戦略について」

講師：農事組合法人・伊賀の里モクモク手づくりファーム専務　吉田修氏

「農作業受託会社からみた農業機械利用の現状と問題点」

講師：有限会社 AMC 専務　伊藤毅氏

「女性の組織オペレーターからみた農業機械利用の現状と問題点」

The 108th Annual Meeting of the Kansai Branch of the Japanese Society of Agricultural Machinery (JSAM) was held June 22－24, 2002, in the facilities of the Faculty of Bioresources of Mie University.

The meeting focused on an extension－site report titled "The Future Role of Agricultural Machinery." Nearly 150 people participated. The meeting was a success with fruitful discussion and the presentation of academic papers. On June 22, the young researchers and students organized an event. The annual meeting opened June 23 with the opening address. Concurrent sessions were held in three rooms. A total of 36 papers were presented on topics such as robotics in agriculture and greenhouse technology. Following the general session, a lecture titled "Future Agriculture and Agricultural Mechanization" was presented. In addition, a symposium on "An Environmentally Friendly Precision Farming System" and a workshop titled "The Role of Agricultural Machinery" ran concurrently. A social gathering was held in Sansui Hall to promote mutual understanding and friendship among the members. On 24, 2002, a field trip was held on the last day of the conference. Participants visited Nabari to see the Takakita Company, a manufacturer of farm equipment, the Moku Moku farm to observe a cooking demonstration and eat barbeque, and the Suzuka international car racing course to see ASIMO, an advanced two－legged robot developed

by Honda.

講師：機殿営農組合オペレーター　青木みつ子氏
農業の多角的戦略、農業機械利用の現状と問題点などについて話題提供があった。

15時10分から17時まではシンポジウム「環境にやさしい精密農作業システム」とワークショップ「農業機械が農業に果たす新たな役割は存在するのか？」が同時平行で行われた。

「環境にやさしい精密農作業システム」では日本における精密農業の技術的課題とその研究アプローチについて議論がなされた。基調講演「欧米における精密農業の発展と現状」と題して、荏原製作所の古見豊氏により欧米における精密農業の発展と現状、また企業の立場として精密農業へどのようにアプローチするかについて講演があった。続き三重大学生物生産機械学講座における研究事例として、

「光計測技術による生物情報センシング」
亀岡孝治・橋本篤氏

「精密農作業ロボットの
位置決めシステムに関する研究」佐藤邦夫氏

「リアルタイム画像処理による
精密施肥と防除に関する研究」鬼頭孝治氏

「精密農作業ロボットの
移動システムに関する研究」王秀崙氏

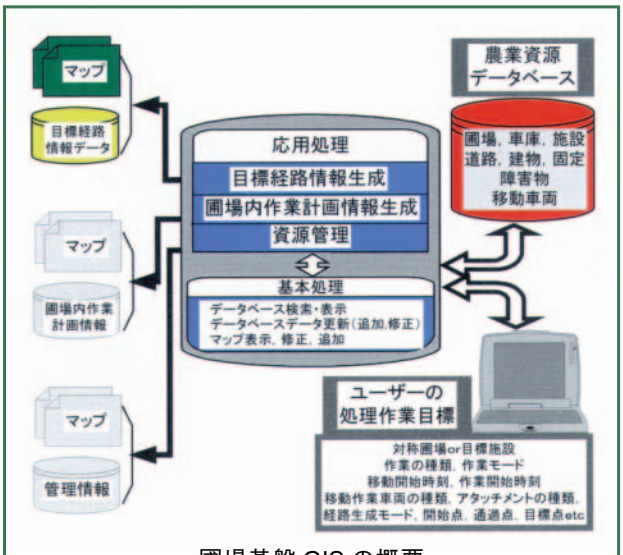
「圃場農業施設群 GIS と RIT-GPS の利用」　山下光司氏

があり、活発な総合討論がなされた。

農業機械の未来像に関するワークショップ「農業機械が農業に果たす新たな役割は存在するのか？」では、あらかじめ現場の声を聴くため、三重県、和歌山県、愛知県の農家、JA 営農指導員、県普及員を対象に、農業機械、農村活性化そして大学における研究に関するアンケート調査を行い70人から回答をえていたので、この結果から抽出した要素に基づき、コーディネータから問題解決の端緒として、９点の問題提起があり、これを参考に農業機械の未来像としての「新しい農業機械を創る」作業を各グループで行った。

終了後、梅田幹雄支部長の閉会挨拶の後、懇親会（三重大学講堂小ホール）が行われた。

６月24日㈪は、見学会を行い、㈱タカキタ（農業機械製造）、伊賀のモクモク手づくりファーム（畜産品製造等）、鈴鹿サーキット（ロボット実演）を見学した。



圃場基盤 GIS の概要

圃場基盤 GIS とは、経営体の関与する圃場や車庫、乾燥調整施設などの農業施設群、また、これらの間を結ぶ道路、給排水路などの農業資源を対象とし、自動移動機能を有する農作業車輌のために、目標経路や圃場作業計画、圃場管理情報を生成するためのものである。圃場基盤 GIS はマップとデータベースおよびデータ処理系から構成される。

筆者プロフィール
堀部　和雄
教授（農学博士）
1941年生

Profile
Kazuo HORIBE
Professor, Faculty of Bioresources
(Doctor of Agriculture)
Born in 1941

前立腺生物学シンポジウム　伊勢志摩2002
Symposium of Biology of Prostate Gland, Ise-shima 2002

日時：2002年10月10日～2002年10月11日
場所：鳥羽国際ホテル　鳥羽市鳥羽1-23-1
講演者：日本（14名）
参加費：25,000円
代表者：杉村芳樹（医学部泌尿器科・教授）

問い合わせ先：〒514-8507　津市江戸橋2-174
三重大学医学部泌尿器科
電話：059-231-5026
Fax ：059-231-5203

Date : October 10 ～ 11, 2002
Venue : Toba Hotel International 1-23-1 Toba. Toba-shi
Presentators : Japanese (14)
Open to the Public : ¥25,000 yen
Coordinator : Yoshiki SUGIMURA
Professor, Faculty of Medicine (Doctor of Medicine)

Office : The Department of Urology, Faculty of Medicine, Mie University.
2-174 Edobashi, Tsu-shi
Phone : 059- 231-5026
Fax : 059-231-5203

第17回三重母性衛生学会
17th Mie Society of Maternal Health

日時：2002年10月19日
場所：三重県立看護大学講堂　津市夢が丘1丁目１-1
講演者：日本（２名）
参加費：1,000円
代表者：前原澄子（三重県立看護大学・学長）

問い合わせ先：〒514-8507　津市江戸橋２-174
三重大学医学部産科婦人科
三重母性衛生学会事務局
電話：059-231-5023　杉山　隆
Fax ：059-231-5202

Date : October 19th, 2002
Venue : Mie Prefectural College of Nursing
1-1-1, Yumegaoka, Tsu, Mie 514-0116, Japan
Presentators : Japanese (2)
Open to the Public : ¥1,000 yen
Coordinator : Sumiko Maehara
President of Mie Prefectural College of Nursing

Office : The Department of obstetrics and Gynecology, Faculty of Medicine, Mie University

Phone : 231-5023
Fax : 231-5202

第264回東海外科学会
The 264th Meeting of Tokai Association of Surgery

日時：2002年10月20日
場所：三重県医師会館　津市桜橋二丁目191-4
講演者：日本（100名）
参加費：無料
代表者：矢田　公（三重大学胸部外科・教授）

問い合わせ先：〒514-8507　津市江戸橋２-174
三重大学医学部胸部外科
電話：059-232-1111
Fax ：059-231-2845

Date : October 20th, 2002
Venue : Mie Medical Association Building
191-4 2cho-me Sakurabashi Tsu
Presentators : Japanese (100)
Open to the Public : abmission free
Coordinator : Isao Yada.
Chairman of Dept. of Thoracic and Cardiovas aular Surgery

Office : 〒514-8507 2-174 Edobashi Tsu Mie

Phone : 81-59-232-1111
Fax : 81-59-231-2845

日本循環器学会・東海北陸合同地方会
The Annual Meeting of Tokai-Hokuriku joint Congress of Japanese Circulation Society

日時：2002年11月９日～2002年11月10日
場所：名古屋国際会議場　名古屋市熱田区熱田西町１-1

講演者：日本（180名）
参加費：3,000円
代表者：中野　赳（三重大学第一内科・教授）

問い合わせ先：〒514-8507　津市江戸橋２-174
三重大学医学部第一内科
電話：059-231-5015
Fax ：059-231-5201

Date : Nov. 9th ～ 10th, 2002.
Venue : Nagoya Congress Center
1-1 Atsuta-nishimachi, Atsuta-ku Nagoya 456-0036
Presentators : Japan （180）
Open to the Public : ¥3,000
Coordinator : Prof. Takeshi Nakano

Office : 2-174 Edobashi Tsu Mie 514-8507 Japan
Department 1st Int. Medicine, Faculty of Med, Mie University
Phone : 059-231-5015
Fax : 059-231-5201

平成14年度日本産業衛生学会東海地方会学会
Annual Meeting 2002 of Tokai Branch of Japanese Society for Occupational Health

日時：2002年11月９日
場所：三重大学医学部　三重県津市江戸橋２-174

講演者：日本（４名）
参加費：1,000円
代表者：川西正祐（医学部・教授）

問い合わせ先：〒514-8507　三重県津市江戸橋２-174
三重大学医学部衛生学教室
電話：059-231-5011
Fax ：059-231-5011

Date : 9 November 2002
Venue : Mie University School of Medicine
2-174, Edobashi, Tsu, Mie, JAPAN
Presentators : Japan （4）
Open to the Public : ¥1,000
Coordinator : Shosuke KAWANISHI
(School of Medicine・Professor)

Office : Department of Hygiene, Mie University School of Medicine 2-174, Edobashi, Tsu, Mie 514-8507 JAPAN
Phone : 059-231-5011
Fax : 059-231-5011

第32回日本消化器集団検診学会 東海北陸地方会 東海北陸消化器集検の会
The 32nd time Japanese Society of Gastroenterological Mass Survey Tokai-Hokuriku District Meeting
The Meeting of the Tokai-Hokuriku Gastroenterological Mass Survey

日時：2002年11月16日
場所：三重県総合文化センター　三重県津市一身田上津部田1234

講演者：日本（１名）
参加費：無料
代表者：竹田　寛（三重大学医学部放射線科・教授）

問い合わせ先：〒514-8507　津市江戸橋２丁目174番地
三重大学医学部放射線医学教室
電話：059-231-5029
Fax ：059-232-8066

Date : November 16, 2002
Venue : Mie center for the arts
1234, Ishiden-kouzubeta, Tsu city, Mie prefecture
Presentators : Japan (1)
Open to the Public : Free
Coordinator : Mie University medical department radiology
Ph. D. kan Takeda

Office : 〒514-8507 2-174, Edobashi, Tsu city, Mie prefecture
Mie University Medical Department Radiology
Phone : 059-231-5029
Fax : 059-232-8066

日本耳鼻咽喉科学会　第111回東海地方部会連合講演会
The 111th Tokai Regional Meeting of Japanese Otorhinolaryngology Society

日時：2002年12月８日
場所：三重大学三翠ホール
講演者：日本（40名）
参加費：無料
代表者：間島雄一（医学部耳鼻咽喉科・教授）

問い合わせ先：〒514-8507　津市江戸橋２-174
耳鼻咽喉科学教室
電話：059-232-1111
Fax ：059-232-9582

Date : December 8, 2002
Venue : Mie Univ. Auditorium
Presentators : Japanese (40)
Open to the Public : Not open to the public
Coordinator : Prof. Majima Yuichi
Department of Otorhinolaryngology

Office : 2-174 Edobashi Tsu Mie 514-8507

Phone : 059-232-1111
Fax : 059-232-9582

第189回日本内科学会東海地方会
The 189ed Tokai Congress of the Japanese Society of Internal Medicine

日時：2003年２月15日
場所：三重県医師会館　津市桜橋２-191-4

参加費：3,000円
代表者：中野　赳（医学部　第一内科・教授）

問い合わせ先：〒514-8507　三重大学第一内科
電話：059-231-5015
Fax ：059-231-5201

Date : February 15th, 2003
Venue : Mie Doctor's Association Hall
2-19-4 Sakurabashi Tsu, Mie 514-0003
Open to the Public : ¥3,000
Coordinator : Prof. Takeshi Nakano

Office : The First Department of Internal Medicine
Mie University School of Medicine
2-174 Edobashi Tsu, Mie 514-8507
Phone : 059-231-5015
Fax : 059-231-5201

日本液晶学会液晶物理・物性フォーラム研究会
―21世紀の液晶物理・基礎と応用―
Symposium of Liquid Crystal Physics and Condensed Matter Forum
―Liquid Crystal Physics in 21-th Century-Basis and Applications―

日時：2002年11月30日
場所：東京理科大学理窓会館　理窓会館会議室（２階）
東京都新宿区神楽坂２-13-1
講演者：横山　浩　日本（５名）
参加費：未定
代表者：山下　護（三重大学工学部・教授）

問い合わせ先：
上原宏行（東京理大）uehara @ rs. noda. sut. ac. jp
大内幸雄（名大院理）ohuchi @ mat. chem. nagoya-u. ac. jp

Date : November 30, 2002
Venue : Risou Kaikan, Science Univ. of Tokyo, Kagurazaka
2-13-1, Sinjyuku-ku Tokyo
Presentators : Hiroshi Yokoyama Japanese (5)
Open to the Public : Unfixed
Coordinator : Prof. Mamoru Yamashita (Mie Univ., Professor)

Office :
Hiroyuki Uehara (Science Univ. of Tokyo)
uehara @ rs. noda. sut. ac. jp
Yukio Ouchi (Nagoya Univ.)
ohuchi @ mat. chem. nagoya-u. ac. jp

日本ベントス学会第16回大会
－公開シンポジウム「海洋の移入種」－
Annual Meeting of the Japanese Association of Benthology-Mie, 2002
－Symposium "Marine Invaders" －

日時：2002年11月２日～2002年11月４日
場所：三重大学生物資源学部２Ｆ

講演者：日本、タイ、その他（約200人）
参加費：5,000円
代表者：関口秀夫（生物資源学部・教授）

問い合わせ先：〒514-8507　津市上浜町1515
三重大学生物資源学部海洋生態学
電話：059-231-9555
Fax ：059-231-9538

Date : 2 Nov. 2002 ～ 4 Nov. 2002
Venue : Mie University, Faculty of Bioresources 2F
Presentators : Japan. Thailand etc. (200)
Open to the Public : ¥5,000
Coordinator : Prof. Hideo Sekiguchi Marine Ecology lab.

Office : 〒514-8507 Faculty of Bioresources,
Mie University, 1515 Kamihama-cho Tsu, Mie, Japan
Phone : +81-59-231-9555
Fax : +81-59-231-9538

日本微生物生態学会第18回大会
The 18th Annual Meeting of the Japanese Society for Microbial Ecology

日時：2002年11月15日～2002年11月17日
場所：三重大学三翠ホール 三重大学生物資源学部

講演者：日本（200名）
参加費：7,000円
代表者：菅原　庸（生物資源学部・教授）

問い合わせ先：〒514-8507　津市上浜町1515
三重大学生物資源学部　海洋微生物学研究室
電話：059-231-9567
Fax ：059-231-9557

Date : 15 Nov. ～ 17 Nov. 2002
Venue : Mie Univ. Auditorium & Faculty of Bioresources
Presentators : Japan (200)
Open to the Public : ¥7,000
Coordinator : Prof. I. SUGAHARA

Office : Lab. Marine Microbialogy, Faculty of Bioresources
Mie University 1515 Kamihama-cho, Tsu, Mie
514-8507 JAPAN
Phone : 059-231-9567
Fax : 059-231-9557

日本トリプトファン研究会　第25回学術集会
25th Annual Meeting on Japanese Study Group for Tryptophan Research

日時：2002年12月５日～2002年12月６日
場所：５日：ホテルグリーンパーク津（津駅前）
６日：生物資源学部　大会議室
講演者：日本（約80名）
参加費：6,000円（予定）
代表者：田口　寛（生物資源学部・教授）

問い合わせ先：〒514-8507　津市上浜町1515
三重大学生物資源学部
電話：059-231-9617
Fax ：059-231-9617

Date : 5 Dec. 2002～6 Dec.2002
Venue : Hotel Green Park TSU
Hadokoro chou700. TSU City
Presentators : Japan (80)
Open to the Public : ¥6,000
Coordinator : Prof. H.TAGUCHI

Office : 〒514-8507 Faculty of Bioresources,
Mie Univesity 1515 kamihama-cho, Tsu, Mie
Phone : 059-231-9617
Fax : 059-231-9617

三重バイオフォーラム2003　リグノセルロース分解のバイオテクノロジーとバイオマス利用
MIE BIOFORUM 2003. Biotechnology of Lignocellulose Degradation and Biomass Utilization

日時：2003年11月10日㈪～2003年11月14日㈮
場所：合歓の里（ヤマハリゾート）
講演者：20ヶ国（150名）
参加費：15,000円（学生），30,000円
代表者：大宮邦雄（生物資源学部・教授）

問い合わせ先：〒514-8507　津市上浜町1515
三重大学生物資源学部　微生物工学研究室
電話：059-231-9622
Fax ：059-231-9684

Date : 2003. 11. 10 ～ 11. 14
Venue : Nemu no Sato YAMAHA Resort
Presentators : 20 Countries 150 Participants
Open to the Public : Student ¥15,000, ¥30,000
Coordinator : Prof. Kunio OHMIYA
(Foculty of Bioresources, Mie University)

Office : 1515 Kamihama, Tsu, Mie 514-8507, Japan
Applied Microbiology, Faculty of Bioresources, Mie Univesity
Phone : 81-59-231-9622
Fax : 81-59-231-9684

平成14年9月
編集発行
三重大学広報
・ネットワーク
運営室
http://www.mie-u.ac.jp/